

社人研ディスカッションペーパー  
「人間関係の希薄さに関する研究のレビュー」に関するコメント

2020年4月  
東京都健康長寿医療センター研究所  
桜井良太

本ディスカッションペーパーは、社会的問題となっている社会的孤立 (social isolation)、および孤独 (loneliness) を扱ったこれまでの研究の概観を捉えることを目指し、その歴史的背景、定義、影響、そして新たなコミュニケーションツールである SNS との関連性に着目したレビューを行い、意義深い成果を示している。老年学研究に携わっている研究者の立場から当該稿についてコメントする。

1. 本ディスカッションペーパーは社会的孤立、および孤独を包括的にレビューしているが、目的と結論を明確にする必要がある。これらの明確化から、特定の研究領域における今後の研究課題を明らかにすることが望まれる。
2. 本ディスカッションペーパーは **Narrative review** の手法がとられているため、一定のバイアスが生じる可能性が考えられる。したがって、本ディスカッションペーパーの結果を一般化させるためにも、レビューの基準を明確化する必要がある。
3. 難解な表現が多々見受けられるため、平易な表現に修正すべきである。
4. 序論に「自殺論」を紹介しているが、本論は社会的孤立と孤独であるため、若干突飛な印象を受ける。前述”1”のコメントに関連して、「自殺論」を概説する目的を明確にして、その必要性について説明する必要がある。
5. 本ディスカッションペーパーでは、「社会的孤立が引き起こす困難としては、心の健康が挙げられる」と結論づけている。これは概ね一致した見解ではあるが、社会孤立が引き起こす問題は、生理機能の変化 (例えば、Loucks EB, et al. Relation of social integration to inflammatory marker concentrations in men and women 70 to 79 years. *Am J Cardiol* 2006;97:1010e1016.) から死亡率の上昇 (例えば、Hanson BS, et al. Social network and social support influence mortality in elderly men. The prospective population study of “Men born in 1914,” Malmö, Sweden. *Am J Epidemiol* 1989;130:100e111.) など多岐にわたるため、記述には注意が必要である。
6. 結論では、SNS の使用は社会的孤立や孤独を緩和するような効果があることが確認されていると言及しているが、SNS の使用が孤立感を高める可能性があるとする研究報告も存在する (例えば、Schmierbach M, et al. A Little Bird Told Me, So I Didn't Believe It: Twitter, Credibility, and Issue Perceptions. *Communication Quarterly* 2012; 60: 317-37.)。SNS が社会的孤立や孤独に及ぼす影響は、SNS の種類や世代によって異なることが想定されるため、このような問題の交絡を考慮した考察が望まれる。